AGC
Your Dreams, Our Challenge

News Release

2026 年 11 月 27 日

AGC、自動車用高機能ガラスの国内開発・生産体制を強化

－国内製造 2 拠点に生産設備を導入、自動車用ガラスの大型化と高機能化に対応－

AGC（AGC株式会社、本社：東京、社長：平井良典）は、大型化・高機能化する自動車用ガラスの国内開発・生産体制を強化するため、相模工場および愛知工場に新たな生産設備を導入します。

相模工場には大型フロントガラスやパノラミックガラスルーフに対応する高精度合わせガラス生産設備を、愛知工場には遮熱・断熱性能などを付与する自動車向けスパッタリングコートラインを導入します。

これにより、大型ガラスへの対応力を高めるとともに、高機能コート製品の国内一貫生産体制を構築します。両設備は 2027 年中の量産開始を予定しています。

次世代モビリティを支える高機能ガラスソリューション



快適で開放的な車室空間へのニーズを背景に、大型化・高機能化する自動車用ガラス

近年、自動車では、車室内の開放感やデザイン性を高めるため、フロントガラスやガラスルーフの大型化が進んでいます。特にパノラミックガラスルーフは、頭上まで視界を広げ、開放的な車室空間を実現します。一方、ガラス面積の拡大に伴い日射熱などの影響も大きくなるため、ガラス自体の遮熱・断熱性能の重要性が高まっています。

このような背景から、今後の自動車用ガラスには、大型かつ複雑な形状に対応する生産技術と、遮熱・断熱などの高機能を付与する技術の両立が求められています。

AGC は、市場変化と国内のお客様のニーズに対応するため、相模工場および愛知工場で、それぞれ下記の生産体制整備を進めます。

【本件に関するお問い合わせ先】
AGC 株式会社　広報・IR 部　お問い合わせフォーム

相模工場　－自動車用ガラス大型化への対応力を強化－

相模工場には、大型フロントガラスやパノラミックガラスルーフに対応するため、新たに業界最大級*1の能力を有する自動車用合わせガラス生産設備を導入します。ガラスの大型化・高機能化に伴い、自動車用ガラスとしてより高い製品精度が求められる中、新開発のプレス工法*2を採用し、従来工法を上回る面精度を実現します。

愛知工場　－高機能・大型コーティング製品の国内開発・生産体制を整備－

愛知工場では、AGC として初となる自動車用大型スパッタリングコートラインへの国内投資を行います。これにより、フロートガラスからコーティング、最終製品までを国内で一貫生産する体制を構築します。高機能・大型コーティング製品の安定供給と迅速な製品開発を実現し、市場要望への対応力を高めます。

AGC グループは、中期経営計画 ***AGC plus-2026*** において、製品・技術で創出する 3 つの社会的価値「Blue planet」「Innovation」「Well-being」を定義しています。このうち「Innovation」では、世界最先端技術を支える素材・ソリューションを提供することで、革新的な未来社会の創造に貢献することを目指しています。モビリティ分野においては、「安全」「快適」「つながる」「サステナブル」をキーワードに、人やモノの移動に新たな価値をもたらす製品・技術の開発を推進しています。AGC は今後も、自動車用ガラスをはじめとする高付加価値製品の開発・供給を通じて、モビリティ社会の進化と持続的な発展に貢献していきます。

〈注釈〉
*1　AGC 調べ。自動車用合わせガラスの製造可能サイズに基づく。
*2　ガラスをプレスして曲げる AGC 独自の製造方法

【本件に関するお問い合わせ先】
AGC 株式会社　広報・IR 部　お問い合わせフォーム